

名水湧き出る豊かな大自然の継承と、森林の再生を目指して

## 11/10(土)第3回「大分県竹田市植樹」開催

800名のボランティアの皆さまと9,000本を植樹

公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役)は、11月10日(土)、第3回「大分県竹田市植樹」を行います。

大分県竹田市は、九州一の湧水群と県下最大の河川である大野川の源流を有し、水と緑あふれる自然豊かな地域です。山々で育まれた豊かな名水と炭酸泉は全国的に知られ、下流域の多くの人々の生活を支えています。

本植樹は、森林資源の確保と伐採跡地の森林再生に向け、2016年より3年計画で実施しているもので、最終年となる本年は、環境学習の一環として参加する竹田市の小中学生100名と、大分県内の大学生120名を含むボランティア800名の皆さまと9,000本を植樹します。これにより、3年間の植樹本数は合計22,800本となります。

当財団は、昨年8月、日本ユネスコエコパークネットワーク(会長 前田穰 宮崎県綾町長)と国内初となる連携協定を締結しています。本協定に基づき、「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和を目指し、①生物多様性の保全 ②持続可能な資源利用と発展 ③ユネスコエコパークを利用した環境教育 ④ユネスコエコパークの価値と知見の啓蒙に関して、日本各地のユネスコエコパークと連携した取り組みを進めています。また、昨年には大分県、宮崎県、および竹田市を含む両県の6市町が取り組んできた「祖母・傾・大崩(そぼ・かたむき・おおくえ)」のユネスコエコパークとしての登録が実現しており、今回の「大分県竹田市植樹」は、同ユネスコエコパークの景観美や希少な動植物を育む大自然が次世代に継承されていくことを願い実施するものです。

当財団は、今後もいのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に積極的に推進してまいります。

### 記

日時: 2018年11月10日(土) 10:00~12:00  
場所: [開会式] 竹田市役所直入支所 (大分県竹田市直入町大字長湯8201)  
[植樹地] 大分県竹田市直入町大字長湯字下野6252-1  
参加人数: 800名  
本数: 9,000本  
樹種: ケヤキ・ヤマザクラ・ヤマモミジ・ハウノキ・トチノキ・カツラ・イヌエンジュ・モミノキ  
ヤシャブシ・クヌギ 計10種類  
面積: 3ha  
主催: 大分県・竹田市・公益財団法人イオン環境財団  
協力: 竹田市森林組合・公益財団法人森林ネットおおい  
イオン九州株式会社・マックスバリュ九州株式会社  
出席者: 大分県 知事 広瀬 勝貞 様  
(予定) 竹田市 市長 首藤 勝次 様  
公益財団法人イオン環境財団 理事長 岡田 卓也  
イオン九州株式会社 代表取締役 社長執行役員 柴田 祐司  
マックスバリュ九州株式会社 代表取締役社長 佐々木 勉

\*当日9:30より竹田市役所直入支所にて、同市の農水畜産物や伝統芸能が披露される「第42回直入地域ふるさと振興祭」が開催されます。

## ご参考

### 【ユネスコエコパークについて】

生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的として、1976年よりユネスコが開始。生物圏保存地域（Biosphere Reserves : BR）に、より親しみをもってもらうため、日本国内ではBRをユネスコエコパークと呼ぶことが、2010年1月、日本ユネスコ国内委員会です正式に決定されました。ユネスコエコパークの登録件数は、122か国686件（2018年7月現在）となっており、現在日本では「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」、「屋久島・口永良部島」「綾」、「只見」、「南アルプス」、「みなかみ」、「祖母・傾・大崩」の9件が登録されています。

### 【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,160万本（2018年2月末時点）を超えています。（イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

### ■植樹事業

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的として、日本はもとよりアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。本年度は、国内では福島県南相馬市、三重県松阪市、宮城県亘理町、宮崎県綾町、千葉県千葉市、沖縄県宜野湾市にて、海外では中国・北京市密雲、ミャンマー・ヤンゴン、インドネシア・ジャカルタにおいて植樹活動を実施します。



2018年 中国・北京市密雲植樹



2018年 宮城県亘理町植樹

### 【九州における植樹活動】

#### 2010年～2012年 長崎県「南島原植樹」

長崎県南島原市の上原地区は、戦後の開墾と整備により山林の木々が伐採されことにより、雨水を蓄え河川に流れる水量を安定させる水源涵養機能が低下していました。当財団は、上原地区の本機能を回復し、土砂災害の防止機能を取り戻すため、2010年から2012年まで植樹活動を行い、のべ3,800名の皆さまと合計55,500本の苗木を植えました。



2012年南島原市植樹

## 2013年～2018年 宮崎県「綾町<sup>あやちょう</sup>イオンの森」植樹

宮崎県綾町は、冬でも落葉しない希少な常緑樹が広がる照葉樹林が日本最大級の規模で現存しており、2012年7月、国内で5カ所目となるユネスコエコパークとして登録されました。伐採適齢期を迎えた町有林の木材を老朽化した中学校校舎の建て替えに活用するなど、エコパークの町として地域の資源を大切にしています。

綾町、宮崎県、宮崎中央森林組合と当財団は、町有林の伐採跡地を本来の里山として復元するため、2013年11月に「綾町イオンの森」整備・保全協定を締結しました。この協定に基づき、2013年から2015年までの3年間で、のべ1,750名の皆さまと合計15,000本の苗木を植えました。植樹地にはやぐらが設置され、公園整備が進められています。

また、昨年8月の日本ユネスコエコパークネットワーク（会長 前田穰 宮崎県綾町長）との連携協定締結を機に、新たに「綾町イオンの森づくり」をスタートし、本年は200名のボランティアの皆さまと1,000本を植樹しました。



綾町中学校の校舎



植樹地のやぐら綾イオンの森づくり



綾イオンの森づくり

## ■助成事業

### [環境活動助成]

1991年より26年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行っています。2017年度は、植樹、砂漠化防止、里地・里山・里海の保全、湖沼・河川の浄化、野生生物の保護、絶滅危惧生物の保護などを行う団体102件に、9,500万円の助成を行いました。累計では2,744件、総額25億9,200万円となりました。2018年も継続して環境活動への助成を実施します。

## ■連携事業

### [生物多様性アワード]

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で 顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2017年度は第5回「生物多様性日本アワード（国内賞）」を実施しました。本年は第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施し、51カ国129名の候補者の中から、国際自然保護連合（IUCN）世界保護地域委員会（WCPA）議長キャシー・マッキノン氏（イギリス）、レバノン自然保護協会（SPNL）事務局長アサド・セルハル氏（レバノン）、マレーシア先端技術産官機構 共同議長、前マレーシア首相付科学顧問 アブドゥル・ハミド・ザクリ氏（マレーシア）の3名の受賞者を決定し、10月31日に東京で授賞式ならびに受賞者フォーラムを開催しました。



第5回「生物多様性みどり賞」授賞式



## ■環境教育事業

### [大学との連携]

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア 学生交流環境フォーラム (ASEP)」を実施しています。2018年度は、「熱帯雨林からの贈りもの」をテーマに、王立プノンペン大学(カンボジア)、清華大学(中国)、インドネシア大学(インドネシア)、早稲田大学(日本)、高麗大学校(韓国)、マラヤ大学(マレーシア)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)、チェラロンコン大学第(タイ)、ヤンゴン経済大学(ミャンマー)の9ヶ国合計72名の学生が参加し、8月2日～5日の期間、マレーシアで開催しました。2018年9月23日には、インドネシア大学にて、国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを目的とした「生物多様性を超えて2018」を開催しました。また、2019年2月2日には、東京大学安田講堂にて、地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考える「第3回イオン未来の地球フォーラム」の実施を予定しています。



第7回ASEP閉講式(マラヤ大学)



第2回イオン未来の地球フォーラム(東京大学)

### [太陽光発電システム寄贈]

再生可能エネルギー活用分野では、啓発・普及、および環境教育を目的に、国内外の小中学校へ「太陽光発電システムの寄贈」を2009年から行っています。2016年度までに、日本、マレーシア、ベトナム、中国の合計40校に寄贈しました。2017年度は昨年に引き続き、中国武漢市の小中学校5校を対象に寄贈しました。



2017年太陽光発電システムの寄贈(中国・武漢)

### 【イオン各社と竹田市の連携について】



イオンは全国各地で郷土の味を守る生産者さまと手を携え、日本伝統の食文化や技術の継承・保存・ブランド化を目指す「フードアルチザン(食の匠)」活動に取り組んでいます。大分県では、海辺の平地から高原地帯までの温度差を活かし、産地を変えながら行うトマト栽培が盛んです。同県竹田市や臼杵市で生産される「赤採りトマト」は青い状態で収穫され店頭に並ぶまでの間に赤くなる一般的なトマトと異なり、赤く熟れた状態で収穫・出荷するため、味が濃く甘いことに加え、畑で収穫したてのおいしさを味わえるといわれています。イオンは大分県や地域の農協とともに、2012年に「赤採りトマトフードアルチザン(食の匠)プロジェクト」を立ち上げ、その魅力を全国に発信し、産業振興と地域活性化を目指して取り組んでいます。



竹田市で生産される「赤採りトマト」